

河津城（賀茂郡河津町笹原）（桜公園）

この城山の山頂には、古の城・河津城があったと伝えられています。

河津城は足利氏の血を引く蔭山勘解由により築かれた砦だと言われています。

言い伝えによれば、延徳3年(1491)の戦で、北条早雲の伊豆攻略軍に山のふもとから火攻めを受けたそうです。

燃え盛る火の手を防ごうにも山頂の城には水はなく、思いあぐねて大量の兵糧米を山頂から火の海めがけ流しだし、火を消そうとしました。

しかし、山肌をなめるように追いかける炎をとうとう消し止められず、落城してしまいました。

今でも城山の山頂では、昔の名残として焼けた米を拾うことができます。

また、昔からこの辺りでは、焼米を牛馬に食べさせると病気をしないという言い伝えがあり、牛馬を飼っている人は焼米を城山まで拾いに来て食べさせたといわれています。

（案内板より）

日本三大仇討ち物語の一つ「曾我物語」のルーツ

曾我兄弟の父

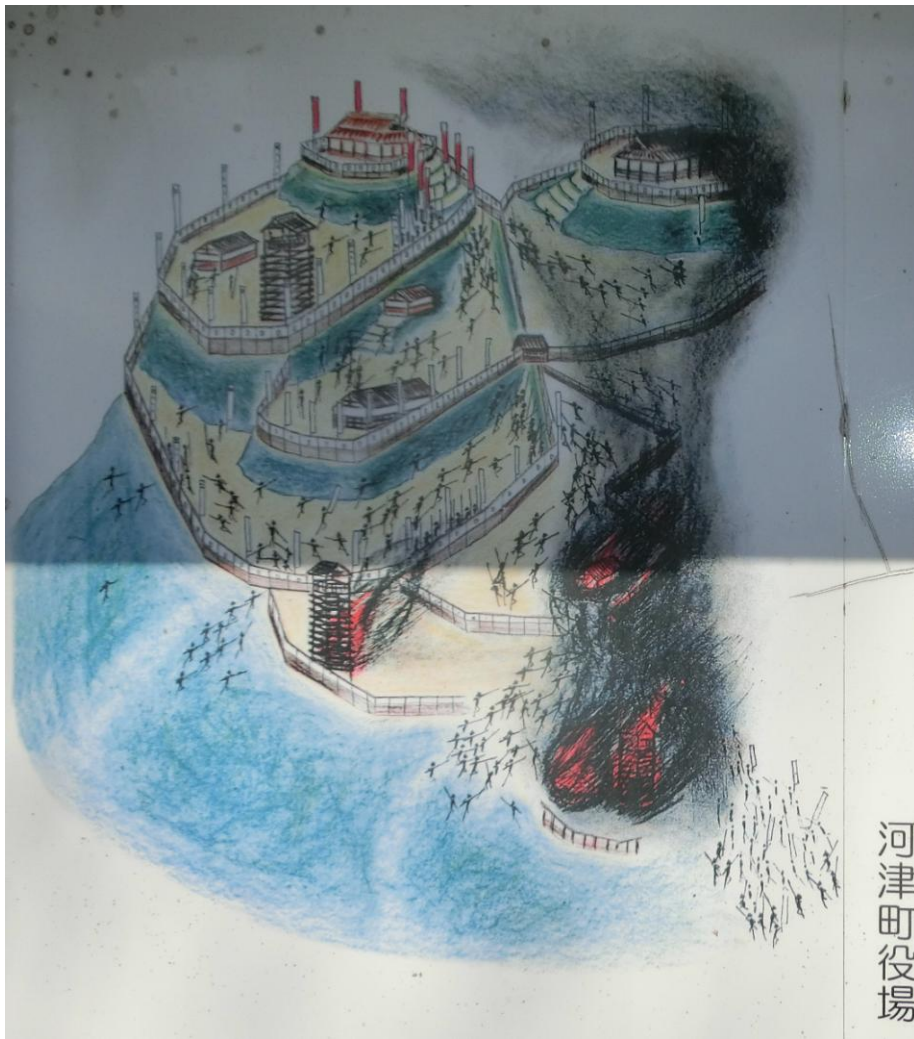
谷津に館の内（ヤカタノウチ）と云う地名があり、バス停には館跡（ヤカタアト）と書かれている。この辺りが平安時代の末頃に河津氏の館があった場所と云われている。河津三郎の父伊東祐親が建てたもので、後に源頼朝の妻となった北条政子とその母、曾我物語で有名な河津三郎の子五郎時致と十郎祐成がこの館で生まれている。曾我物語のルーツはその頃の伊東の領地争いから始まる。工藤祐経から伊東祐親暗殺の命をうけた大見の小藤太と八幡の三郎は奥野で頼朝一行と狩りを楽しんでいた祐親を赤沢山で待ち伏せする。【番手の大見は機をのがしてしまったが、二番手の八幡の三郎が放った矢は目的の祐親ではなく、側にいた河津三郎に当たってしまう。三郎は、ちらりと見えた敵の名を告げ、「妻子をたのむ」と一言残した後その場で息をひきとった。その後、妻の万却是子供を連れて相模に住む曾我の太郎と再婚。そして十入牢後、曾我兄弟は元服し、富士で巻狩中の祐経を夜いんに乗じて襲い、みごと父の仇を討つのである。

延徳の古戦場 河津城跡

河津城は足利氏の血をひく蔭山勘解由によって築かれた砦で延徳3年（1491年）北条早雲の伊豆攻略軍にふもとから火を放たれた。城では燃え登ってくる火の手を防ごうにも水がなく、思いあぐねて兵糧庫から大量の米を運び出して、山頂から火の海めがけ流し出して消そうとしたが、とうとう消し止めることができなかった。以後蔭山氏は後北条氏の配下となるがその子孫蔭山氏広の時、こんどは豊臣秀吉に攻略され、滅んでいる。河津浜から一望できる大日山がその城山で、今でも土の中から焼けた米が出てくると云う。また桜公園として山頂まで遊歩道が整備されている。（徒歩 25 分）

「河津温泉旅館組合」サイトによる





城山下の休憩舎より河津方面を望む

